

居宅生活支援部会アンケートの結果について

実施時期

令和6年9月5日(木)中旬から令和6年9月20日(金)まで

実施方法

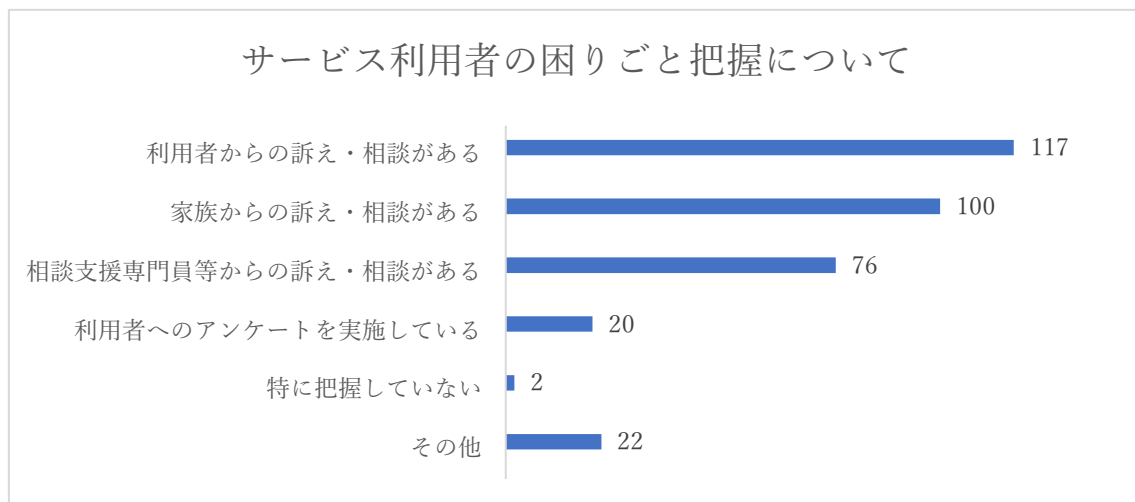
「Microsoft Forms」にアクセスし、WEB 上で設問に回答

対象機関と箇所数・回答数（対象：市内の事業所※児童、入所系除く）

調査対象機関	箇所数	回答数	回答率
居宅介護等	35	10	28.6%
短期入所	39	3	0.8%
生活介護	38	19	50%
自立訓練	13	6	46.2%
就労移行	8	3	37.5%
就労定着	5	1	20%
就労継続支援 A 型	17	6	35.3%
就労継続支援 B 型	53	34	64.2%
自立生活援助	1	0	0%
共同生活援助	35	24	68.8%
日中一時支援	13	4	30.8%
地域活動支援センター	4	2	50%
計画相談支援	25	20	80%
合計	270	132	48.9%

【設問6】サービス利用者の困りごとについて、貴事業所ではどのように把握していますか。(複数回答可) *

結果は下記グラフのとおり。「利用者からの訴え・相談がある」が117と最も多かった。

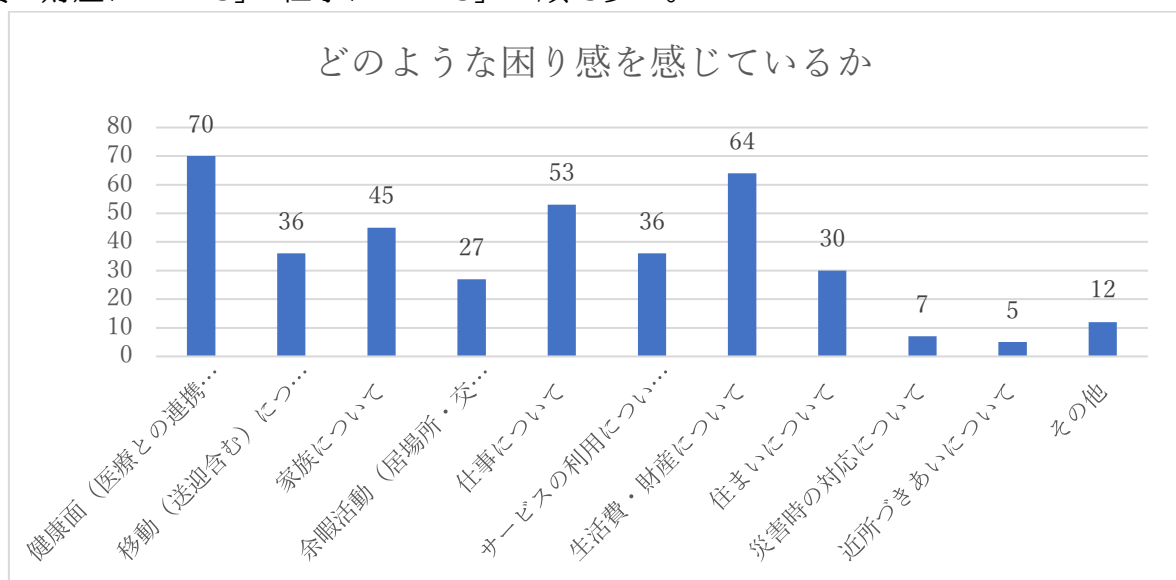


「その他」(22件)の回答として

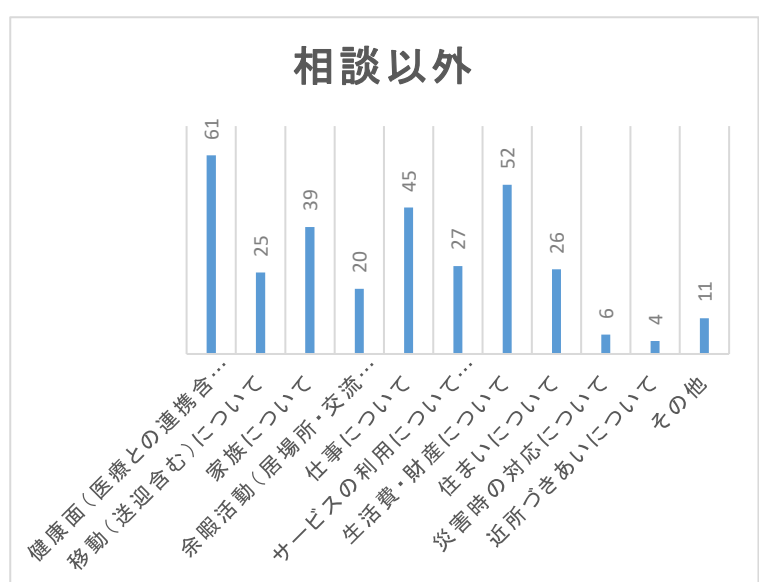
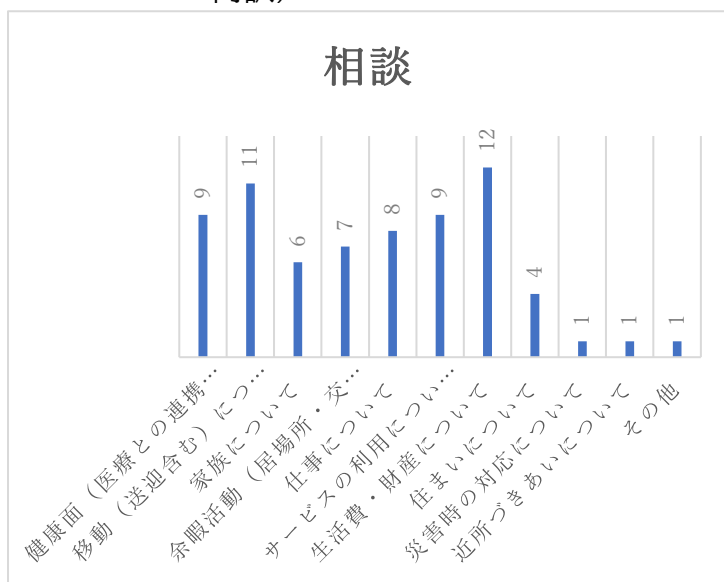
- ・「訪看・病院」
- ・「ヘルパーを通して」
- ・「訪問看護やデイケアなどの関係機関との情報共有の時間を持っている」
- ・「定期面談を行い確認している」
- ・「ワークシートへの記入を日常的に実施・個別支援による聞き取り」
- ・「利用者様の声 BOX を設置している」 等

【設問7】利用者と接する中で、利用者がどのような困り感を感じている・または不安を抱えていると感じますか。(複数回答の場合は、多いもの上位3つまで教えてください。)

結果は下記グラフのとおり。「健康面(医療との連携含む)について」「生活費・財産について」「仕事について」の順で多い。



内訳)



「その他」(12件)の回答として

- ・「細かい相談をどこにしたらいいのかわからない」
- ・「利用者同士のつきあいについて」「人間関係について」
- ・「介護者自身の体調について」

- ・「将来の生活について」「将来について」「親亡き後の心配」
- ・「特になし」
- ・「異性間のトラブル、対人トラブル、仕事の悩み等、細かい悩みをどこまでどこに相談したらいいかわからない。」 等

【設問8】問7で回答した内容について、具体的に内容の記載をお願いします。

項目ごとの具体的内容を下記のとおり整理しました。

■「健康面(医療との連携含む)について」(70 件)

- ・生活介護を利用したいが、自身の体調（腰痛）がすぐれず、送り出しがしんどく利用できない。
- ・将来の生活（健康や生活費など）が不安である。
- ・精神的な病状や健康面の持病の悪化がしないか不安
- ・精神的に不安定になった時にすぐに受診/入院できるのか。
- ・身体機能面の維持等を含めて、医療機関や GH など住まいの場とも連携していく必要がある。
- ・通院時、医師に治療について話をされたが、自分ではよく分からず決められなかった
- ・生活習慣病悪化予防のための食事制限、支援者から管理されると感じる事へのストレス
- ・定期通院が必要ない方が日頃の健康状態などの把握が難しい。緊急的に通院したい場合にも障害を理由に断られることもある。
- ・体調不良でも急な受診ができない
- ・病気と向き合う事の難しさ（うつ症状、幻聴など）

■「生活費・財産について」(64 件)

- ・生活保護世帯・金銭管理ができないが外部は拒否。行政・よりそい等に相談しても生保だからとか、一人に対し金銭管理の把握ができないと言われる。母子相談は担当がかわったことで本人が拒否。相談もある程度相談は受けれるが専門的な事や詳しくない事に関しアドバイスができない。
- ・「日頃の生活費が厳しい」（生活していく上での金銭感覚を学ぶ機会がないと思われる）「親なき後が心配」
- ・生活費・財産については、B 型の収入だけでは足りないといった相談や、将来に関する経済的な不安などがあげられる。
- ・生活費・財産・収入以上にお金を使ってしまい、生活費がない。親や社協が

金銭管理をしていることへの不満。将来の生活への漠然とした不安。

- ・親が他界後に自分1人となった時の心配
- ・親なきあとの生活費や住まい
- ・今は大丈夫だが、親が亡くなってしまったら生活が成り立っていくのか心配、というご相談。
- ・就労はしているが、シフトが減らされ給料が減って電気代等払えない。

■「仕事について」(53件)

- ・加齢に伴う作業スキルや意欲低下 自分に合う就労先
- ・一般就労につながらない。働きたいのに主治医がB型を勧めてくる。
- ・いつまで働けばいいのか。定年があるようでないが、介護に行くのも違う。
- ・就労に関して家族と意見の相違がある。

■「家族について」(45件)

- ・家族関係が上手くいっていない
- ・親が高齢になり、今後のことを兄弟に任せるべきか、後見人を付けるべきか悩んでいるなど
- ・家族との関係がうまくいかなかったり家族が要介護状態になってしまい生活が不安になる
- ・家族に障害理解がなく、家での声掛けに負担を感じる
- ・家族（保護者）の高齢化等により、関係が疎遠なり頼れる人がいない。身寄りがない。

■「移動について」(36件)

- ・通所の際の移動で送迎バス対応困難（ルートがない、特性上、送迎バス乗車不安）移動支援の移動手段で公共交通に不便さや特性上利用困難の方のタクシー等利用の費用がかさむ
- ・買い物外出、通院、通所等の移動（バスの本数が減っていく一方、タクシーを頼むだけの金銭的ゆとりがない、タクシーチケットにも限りがある）
- ・ご希望の支援（サービス）を受けるための移動ができないことで利用につながらない。
- ・公共交通機関に乗りたいが、場所によってサポートに差がある。

■「サービスの利用について」(36件)

- ・家族の高齢化による本人支援（同居による衣食住の支援含む）が困難になり、きょうだいにも託せない or いないため、住まいのサービス（施設入所

支援や共同生活援助、レスバイトを含めた短期入所）が本人の特性等に合ったものがない or 断られる。

- ・強度行動障害の方の受け入れ先がない。
- ・特に居宅介護が不足していると伝えられている。特に土日祝日の 18 時以降は依頼しても対応していないのがほとんど。
- ・当事業所が休日の時に利用できるサービスがあるといいが、希望する曜日等に短期入所や日中一時支援の利用ができない。
- ・発達、精神の障害の方に多い傾向はあるが、就職・就労訓練・生活介護等、既存のサービスではマッチングしにくく、制度の狭間にいる方が多くいる。
- ・医ケアがあると、極端に利用できる事業所が限られてしまう。サービス利用が困難。

■「住まいについて」(30 件)

- ・親なきあとの生活費や住まい、特に持ち家の場合。
- ・車いすだと市県営住宅や賃貸物件がほとんどない。
本人が自立した生活を望んでも、住宅改修や一人暮らしを理由に断られる。
また、環境の整備が整わないことでの「障害」が生じ、介護者に負担が生じる。

■「余暇活動について」(27 件)

- ・コロナ禍で地域の活動がなくなっている。週末の居場所を含め福祉サービスも資源が見当たらない。
- ・余暇活動で何かしたいが情報がない。

■「災害時の対応について」(7 件)

- ・災害時の対応について、医療的ケアを必要とする方を介護しているご家族より、福祉避難所などに避難した際の医療的ケアの対応が不足するのではないかというご不安を頂いている。実際にどのようなになるかはお答えできないので、漠然とした、不安感を抱かせてしまっている。
- ・いざ起きた時不安。どうしたらいいのかわからない。どこかに避難したいがそこが障害があると受け入れてくれるのか。実際起きないとわからない。

■「近所づきあいについて」(5 件)

- ・災害時に備えて地域の方々との交流
- ・「近隣住民から監視されている」(精神障害の方)「町内のルールを守ってくれない」
「下着姿で徘徊する」(町内の方、相談員)

【設問9】障がい者の地域生活を支える上で、不足している資源や、あったら良いと思うサービスはありますか。

(フォーマル)

1. 重度心身障がい・強度行動障害の方の短期入所先 休日支援 余暇支援先 グループホーム
障がい者専用オンデマンド交通
2. 移動(移送)サービス
3. 重度障がい者の各種サービス(生活介護、グループホーム)
4. 65 歳以上の精神疾患を患っており、まだ介護保険の適用ではない方が入居できる施設
5. 公共交通機関の縮小や削減に伴う移動手段。障がい者に優しいオンデマンド交通
6. グループホームの空き情報
7. 地域生活を支えるためのサービス(居宅介護/短期入所/生活介護等の日中サービス等)は増えてはいるが、特性に合った事業所に出会えないケースがある。強度行動障がいの特性のある利用者様、医療的ケアが必要な利用者様、精神疾患で情緒が安定せず攻撃性や衝動性が高い利用者様等において、福祉だけでなく医療的ケアや休息的医療(入院やデイサービス等)もあると良い。不足と言う観点だけでなく、どうしたら長く地域生活ができるかを考えていく体制が必要に思われる。(緊急時等、たらいまわしになったり、家族や相談員が悪戦苦闘するのではなく、一定の担保があれば安心なのですが…。)
8. サポートが必要な人達専用の送迎バスがあるといい。
9. 高齢者事業の「ひとり暮らしの高齢者見守り事業」「えがおでサポート事業」のように、ちょっとしたときに助けてくれたり見守ってくれるような支援。(家族が不在時の安否確認、体調不良で外出できないときに食事を買ってきてくれるなど)
10. 重度訪問介護事業所、土日祝日夜間帯に稼働している訪問介護事業所が不足していると感じます。
11. 施設入所でも移動支援が使えると良いと思います。自身の予定を遂行するために外出したくても、施設職員の余裕がなく、結果、外出を諦めている方は多いと思います。身体障害者の移動支援の対象要件が厳しすぎます。
12. 者(児)も合わせ短期入所
13. 医療的ケアを必要としている方へのショートステイや対応してくださるヘルパーが不足していると思う。
14. 知的障害のある方の支援ができるグループホームは不足している、偏っているのかな?と思います。移動支援の利用の仕方(交通機関を使って通所ができるのか)の幅が広がると QOL はあがると事業所の送迎負担は減るのかなと思います。交通費の負担も他市町のように行政負担もありなのかも。

15. 土、日等事業所がお休みの時に利用できるサービスがあったら良いと思います。
16. 毎日の生活を継続できるための移動支援の確保
17. 現状は困っていない
18. 包括的なサービスがあればと思う
19. 医療的ケアが必要な利用者様が住居として利用出来るサービス
20. 障がい者本人にサービスや制度等の情報を定期的にアナウンスしてほしい。(本人が困る前に)
21. 計画作成する方の医療的な知識も必要と思われる
22. 施設と医療機関との情報の橋渡しの必要な方が必要
23. 体験させてくれる会社さんがほしいです。
24. ゴミ捨て支援
25. 困難事例対応加算
26. 日中の余暇の充実を図るサービスなどがもっと増えていけたらいいと思います。
送迎周遊バス、関係する情報が一目でわかるもの等。
27. タクシー券などの増額、福祉優勝輸送の補助や推進
28. 障害を持たれた介護者、家族様への支援が不足していたり、介入度合いが難しいのでそういった部分のサービスを充足させて頂きたいです。
29. 身体機能の維持に特化したサポート 筋力低下等を予防する事は、長い視点で自立維持、介護予防につながる
30. 身体障がい者を受け入れるグループホーム
31. 中重度ケアが必要な方が利用できるサービスの選択肢が多くはないと感じる。
32. 夜間や休日の緊急時の支援
33. 精神的に長時間の労働が不可能な方(B型就労所に行けない方や在宅での短時間の就労をされている方向け)の日中支援サービス
34. 支援サービスや運営における専用の相談窓口の開設
35. グループホームにいても医療的ケアができるシステム。
36. 介護タクシー、外出時に付き添ってくれるヘルパーが不足している。
37. サービスや財産管理、生活面など複合的に相談できる窓口があるといいと思う。
高齢の親と高齢障害者のこどもという組み合わせでの同居家族の場合は特に、いざという時にどうしていいかわからない人も多くなる。相談員に聞いてもそれは管轄じゃないという方もいるので、ここに聞いたら何らかの道がつながるといったところがあればと思う。
38. ワークショップやお話し会、ボランティア等。または、障がいのある方が主体的に、安全にそうした企画をしたり、運営の手助けを得たりできるようなサービス。
39. 障がいのある方が通える大学。
40. 市町によって変わるが、65歳になった時に介護認定調査を半強制にし、障がい

サービスから介護サービスになり負担が増えている(日中活動の内容は変わらない)。

- 41. 強度行動障害、医ケア、引きこもり等に対応できる GH、SS、日中活動が充実したらよいと思います。
- 42. サービスを行う上での行ってもいい・提供の範囲・壁について疑問がある。
- 43. 就労と就労継続支援 B 型の中間のようなサービスがあると良い。
- 44. 練習すればできるが、まったくのひとりも不安な方や通勤時に問題行動のある人のサポートなどあったら、もう少し働く場の選択をするときに選択肢が広がるのではないか。

(インフォーマル)

- 45. 挨拶登校の児童というより、保護者の相談に親同士が話し合える空間。敷居が高くない環境。(まずは同じ事業所。同じ相談員の家族など)
- 46. 保護者が話し合いができる環境(こどもも参加可能で、親・こどもが別々の場で過ごせる)
- 47. 知的に重い児童や者の親たち、本人が通える運動できる場所(インフォーマルな資源も含む)
- 48. 相談員が地域資源の探し方や困り感を気軽に相談できる場(月に 1 回、開催するカフェみたいな、そこに行けば誰かと気軽に話せる環境)
- 49. 安心した生活を送れるように地域のつながりが持てる機会。中には、積極的に避難訓練に参加する方もいるが少数である。
- 50. 気軽に集える場所。地活はあるが、通うまで距離があり、公共交通機関を使うとお金がかかってしまう人もいるため。
- 51. 気軽に健康相談ができる場所や、事業所への利用者さんの健康相談や、利用者さん向けの健康診断でのバックアップ
- 52. 地域での行事やイベント
- 53. 住まいの近所に、障害者に対して理解があり、障害者を人として関わってくれる身近な相談相手がいると良い
- 54. 地域の理解、ボランティア
- 55. 相談支援専門員さんの不足、障害者の余暇活動を行える場所や居場所となるような場所が増えるといい。低料金での配食サービスがあるといいなと思う。自助グループ、ピアサポートが受けられる場所が選択肢として増えるといいのかもしれない。
- 56. 余暇時間に通える場所
- 57. 障がい者と健常者が集い交流できる場所やイベント活動の充実。
- 58. 余暇活動(スポーツや手芸や絵等で、趣味が広がり人とつながりが持てたり

- する)できる場所が増えると、より生活が充実できるのではないかと思います
59. トレーニング等体を動かせる場、気兼ねなく通える場
60. 町内会との関わりを深くしもっと障がい者を知ってほしい
61. 交流イベントの開催。(小旅行、ボウリング大会、女子会、ランチ会など)
62. 仕事の後に利用できる余暇活動の場所
63. これで良いと思います。あってもキリがない
64. 寄りそって時間を過ごすなど、個別的で継続的に受けられる情緒的なサポート。
65. 能登半島地震の際に 1.5 次避難所に支援に行った際、1.5 次避難所に 300 ほどある避難テントに明らかに知的障害のある(支援が必要とおもわれる)方は、5 日間 2 名しか来られていなかった。非常時に支援側に情報を伝えられる(支援側が情報を得られる)仕組みがあると良い。
66. 本人の能力を把握したり、将来的な就労の幅を広げる為に、施設外就労以外の場(例えばアルバイトのような形)で就労の経験が accrue するような場(資源)があると良いと思う。
67. 健康面に合わせた、身のまわりの日用品のレンタル充実化、異性との交流の場、地域に出る機会が増えるイベント。個人外出はしているが限界はある。自分で外出する利用者様もいるが、外出パターンがマンネリ化している。"
68. 地域の方々への理解を深めていただけるような集会?を開いたり、チラシ等を用いて、地域で支えていただけるような働きかけが出来たらと思います。
69. 福井は車社会なのでそこはもう少し改善出来る事がないかを検討して欲しい
地域利用者様が集まれるサロンのようなものがあり、そこに事業所が介入できるとより地域交流できると思う。

【設問10】最後に、この自立支援協議会に期待することがあれば、自由にお書きください。

- ・あまり自分自身のスキルに繋がったり、助かったと実感したことがないので、何か一つでも悩みが解決したら期待したいとおもいます。何を討論し何を目的としてやっているのか、結果何に繋がったのかが多分参加している人しかわかってないように思う。
- ・各障がい種別から当事者が集い、同じテーブルで議論する機会を作っていただきたいです。交通機関(バス、タクシー、電車等)の事業所と協同する取り組み(研修や勉強会の実施等)を期待します。
- ・重曹的支援体制とは、関係機関の顔の見える繋がりだけではなく、地区の企業や人が繋がれる体制を構築することだと思う。その結果、障害者が狂人のように腫れ物

に触るような扱いを受けない福井市を作るために事業所だけの課題ではなく地域の課題を解決して欲しい。

- ・障がい福祉サービスを利用する方の本人および取り巻く環境等は、変わりつつあると感じており、利用者層の変化の中でどのようなことが求められていくのか発信してもらえればと思います。
- ・部会の整理と課題の吸い上げ機能がこのままで良いか、吸い上げた課題がそのままになっていないかの検討
- ・障害種別によって本当に不安感や課題が異なると思います。「障害種別問わず」ではありますがその視点で課題抽出していくことも必要と考えます。(例えば、医療ケアが必要な方…地域生活を営む上ではヘルパーの医療ケア研修等で医師の協力も必要ですが、快諾してくれる機関が少ない。知的障害の方…本人の思いを得られ難く、通所と家の往復で家族ありき(家族のみ)での支援になっており、将来のことを見据えられていない。)
- ・障がい当事者が、参画できるような取り組みや配慮
- ・困難事例やサービスニーズを集約して分析して地域課題を抽出する
→今回のアンケートのように定期的に情報収集する試みはとても良い取り組みだと思います。
- ・精神疾患の方の対応に苦慮しています。より手厚いサポートを受けれるようなスキーム作りに一役買ってほしい。
- ・困ってる人が相談しやすい仕組みやその取り組みを分かりやすく発信していただけることを期待します。
- ・他の地域での課題の話合ったことや解決策など、共有出来ること。
- ・相談事例(対応結果も含む)の紹介。
- ・入所支援施設の利用者には地域移行・地域定着部会が関係していると思います。
取組の内容や実態調査等について情報提供をしてほしい。
- ・利用者自らが自立する意思があまりない事が多いので本人や家族等も自立へ向けた意思をもっと感じるよう後押ししてほしい。
- ・障害者についての地域住民への普及・啓発をしていただきたい
- ・災害時対応について障害者に合った対応を示していただきたい
- ・障害者対応人災育成の取り組みをしていただきたい
- ・障害者の問題を共有し、課題解決に向けて各事業所が取り組めるようにしていただきたい。